

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201865		
法人名	株式会社 SUN GLOW		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地	岡山県倉敷市林1145-1		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分で出来る事はしていただき、残存機能の現状維持に努めている。 個人個人の生活のペースに合わせた援助を行い、家庭的な雰囲気作りに努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370202701-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 21 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和4年11月より、オーナーが変わり、「自分が入りたいGHを作りたい」、「利用者が安心して頂けるようにしたい」との思いで様々な取り組みを行っている。職員を入れ替えることで目線が変わり、リビングの照明を変えたなど、施設の雰囲気に着手して、職場環境が明るくなった。利用者には「元気で長く」過ごして頂きたい思いから、健康維持に努め、棒体操や嚙下体操、理学療法士の指導のレクリエーションやリハビリに重きを置いた。近隣のスーパーやJAに買い物に出掛け、フラストレーションが溜まらない気配りもしている。かかりつけ医は24時間体制で、きめ細やかな医療機関との連携だけでなく訪問看護の養成も行った。家族からの要望で、看取り体制を整え、研修を実施し、「最期をここで迎えられるよかったです。」と思ってもらえる施設を心に刻んでいる。管理者は両ユニットを兼務し、職員間の意思疎通がスムーズとなり、1日1回お腹をかかえて笑える環境作りにも徹している。「職員が楽しくなければ、利用者も楽しくない」と、利用者や家族の気持ちに寄り添ったケアプランに反映させている。その結果、利用者は元気で明るい表情で生活をしている姿を評価員は目の当たりにすることができた事も、新たなオーナーの意識改革から手始めたことからの成果であろう。
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示しスタッフはいつでも目にする事が出来る	法人全体の理念である「元気」「相手の思いに寄り添ったサービス」を提供できるように日々のケアに取り組んでいる。理念は実践できていると、代表や管理者は自信を持って答えてくれた。開設してまだ6ヶ月ということもあり、これからの会議や研修にて、理念が浸透できるような体制を作っている。	理念を職員の見えるところに掲示してみてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため積極的な参加は出来ていないが地域の催しなど感染対策に努めながら参加している	朝のゴミ捨て時に、出会った方と挨拶を交わす関係ができています。地域の方からミニ広報誌が配られ、情報の共有ができています。夏祭りにも参加して、出店で買い物を楽しんだり、神輿を見たりすることができた。地域の中学校からお花の提供があり、玄関先に飾っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの学生の郊外学習の受け入れを行い触れ合いの機会を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため開催は出来ていない。2カ月に1度高齢者支援センターの担当宛てに両ユニットのご利用者の近況を書面にて報告を行っている。	現在はコロナの為、リアル開催ができていないが、地域包括支援センターの方にFAXにて報告を行っている。入居者の状況の説明や行事の報告をしている。対面式の会議では、町内会長、地域包括、民生委員、家族の方に参加してもらう予定である。	運営推進会議で出た意見を反映できるように工夫してみてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在コロナ禍のため運営推進会議を行えていない。制度上のことなどは市町村の担当へ直接連絡を取っている。	窓口の基本は代表だが、徐々に管理者へ移行していく予定である。何かわからないことがあれば、親切・丁寧に教えて頂ける関係ができています。施設立ち上げの際には、役所へ直接出向きアドバイスを頂いたこともあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない	研修時には、身体拘束の理念と方針、三原則の確認を行った。参加できなかった職員には、レポートを提出することで、フィードバックする機会を設けている。ベッドの先をL字型に変えることで身体拘束にならない配慮をしている。スピーチロックの研修会にも参加して、知識を深めることができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について正しい知識がもてるようスタッフ間で話し合い、小さな変化があれば情報の共有を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者に一任している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時によく説明し納得されたうえで契約を交わしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し意見要望などを受け付けられるようにしている	面会は令和5年1月より短時間・少人数制で再開したことで、利用者・家族に安堵感が生まれた。病院受診の際に、家族の方から情報を得ることで、今後のケアの参考となっている。家族からの意見を電話で聞き取った際には、職員間で共有するように工夫している。管理者が手紙を書くことで、利用者の様子がわかるとの意見を聞くことができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社移行のためなかなか時間を取る事が出来ず個別に情報収集をしているが今後はミーティング等を定期的に行い情報の共有に努める。	新しい施設に変わる際に、統括責任者が面談を行い、一人ひとりの思いを共感することができた。職員からは、利用者のケアについての話が飛び交っている。職員間の風通しも良く、管理者には情報が何でも集まってくる。SNSを活用することで、職員間の連携も取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は同じ勤務を行いスタッフ個々の状況の把握、相談に応じている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部での勉強会を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ボランティアの受け入れや他施設の行事等に参加している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のペースで会話し出来る限り不安解消に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前後も面談面接にて要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの時点でどのような支援が必要か見極める努力をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のコミュニケーションを図りながら信頼関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に情報交換を行い、家族と共に本人を支えるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の電話や面会、手紙のやり取りで関わりを支援している	面会ができるようになり、週1回会いに来られる方もいる。頻回の訪問にも関わらず、昔幼い頃を思い出して、涙を流されていた。唱歌や演歌を流せば、ロずさむことで、利用者は昔馴染みを思い出している。利用者同士が「おはよう」と声を掛けることで、コミュニケーションが取れ、施設内で馴染みの人ができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の生活のペースを尊重しており、居室で過ごされる方もいるが、水分摂取時やおやつ時はフロアへ誘導しスタッフも交え交流を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の話に傾聴し出来る限り希望に添えるよう努めている	入居時に生活歴を把握しているが、わからないことがあれば家族の方に聞き取るように工夫している。利用者に寄り添い、家族にも安心して頂けるように、職員を担当制に変える予定である。入浴中にポロっと出る何気ない会話を大切にしている。出た意見は申し送りやカンファレンスにて職員間で共有することができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き、また日々の会話より生活歴を把握出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の健康状態は日々チェックし状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人、主治医等と情報交換を行いそれぞれの意向を反映した介護計画を作成している	入居時に暫定プランを立てて、何もなければ1ヶ月、6ヶ月で見直している。ケアマネジャーを中心に、アセスメントシートに細かく記載したり、職員からの情報の提供をしたりすることで、利用者寄り添った介護計画となっている。長期目標は1年、短期目標は半年で設定していて、モニタリングは3ヶ月に1回実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日生活状況が把握出来るように個別に記録しケアプランに反映できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長期で医療的治療が必要とされた場合を除き可能な限り支援に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に応じた対応が行えるよう努めたいと考えている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診があり、主治医は一人ひとりの状態を把握し何でも相談出来る関係を築いている。必要があれば歯科医往診など対応している	きめ細やかな対応や24時間体制で診て頂けるので、かかりつけ医は、ほとんどの方が協力医に転医されている。往診が週2回、訪問看護が週1回、薬剤師が2週間に1回来てくれるので安心して任せることができています。他科受診は、基本家族対応だが、管理者も同行している。訪問歯科は必要時には、対応して頂ける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間の連携体制を取りご利用者に変化があった際には早期対応が行えるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後も家族や病院との情報相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当事業所の指針を説明し同意を得ている	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」にて説明し、同意を得ている。4月に看取りの研修を開催して、施設全体で看取りに対して前向きに取り組む姿勢がみられた。今後、施設内で看取りが実施できるように準備中である。管理者の思いは、最期をしっかりと見送りできるようにしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを基にし外部の勉強会の参加も促している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に行っている	新しい施設となつてすぐ、昼設定で火災訓練を実施した。通報訓練と消火訓練を行った。玄関にハザードマップ、事務所と各ユニットの詰所に連絡網を掲示している。春先には、夜間想定での避難訓練を実施する予定である。備蓄は、グローブ、マスク、ブランケット、水、ドライフードを事務所に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の人格を尊重しその人に合った声かけを行っている	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、利用者の反応をみて、別の呼び方をする場合もある。呼称をケアプランに入れることで、了承を得ようとしている。居室へ入る時には、必ずノックをしてから入室し、写真を撮る際にも了承を得ている。職員は、自分されて嫌なことはしないように日々のケアに取り組んでる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人が自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで会話し出来る限り不安解消に努めているペースを優先している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	相談もあるが自己決定している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や、季節の食材を取り入れている。机拭きなど入居者が手伝ってくれる	3食ケイタリングだが、ご飯は施設で炊いている。嚥下体操をすることで、スムーズに食すことができ、完食の方が多い。誕生日の際には、利用者には嗜好調査をした上で、お寿司や紫いもを使った豚汁を提供したら喜んで頂けた。行事の際には、職員と一緒に食卓を囲むことで利用者にも笑顔が生まれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の食事形態を考え十分な水分摂取の確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行う、排泄の失敗やおむつの使用を減らすように努めている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握したことで、スムーズなトイレ誘導が出来るようになり、失敗が減った。頻回にトイレへ行く利用者に対しては、医療機関と連携したり、家事作業を取り入れたことで、トイレの回数が通常に戻った事例がある。表情や仕草を見て、トイレへ誘導するように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や乳製品、水分摂取を日々の生活へ取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事故防止に努めながら、リラックスできる時間を提供できるよう、ご本人の体調に配慮しながら定期的に支援している。	週2～3回。1日3人までの入浴にしたことで、利用者がゆっくり入ることができ、職員との会話が弾むようになった。基本は掛け足したが、状況に応じてお湯を入れ替えることもある。全員がなるべく1番風呂に入れるように順番に配慮している。季節湯としてゆず湯の提供をしたり、気分を変える為に、入浴剤を使ったりする場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに合わせて入眠の声掛けを行っている。また、安心して休んで頂けるよう声掛けや関わりなどに配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフがいつでも見えるように薬情報はファイルし、正しく服用出来るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴をスタッフが理解したうえで、それぞれにハリのある生活をしていただけるように努める		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には行えていないが、本人の希望があれば個別に対応し、戸外へ出かけるように支援している	近隣のスーパーやJAに買い出しに行くことで気分転換となっている。買い物がてら茶屋町付近へ足を伸ばしドライブを敢行した。深山公園で花や果物を買ひ、紫いもアイスを食べたら美味しいと喜んで頂けた。福田公園へ行き、満開の桜を見ることができた。玄関先のソファでお茶を飲みながら会話を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で少額を持たれている方はいるが、基本的には施設で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には月ごとに応じた壁画、写真を飾るなどし自由に過ごせるようにしている	リビングの照明を明るくしたことで、利用者も雰囲気も明るくなった。職員が自宅からメダカを持って来てくれて、餌をやったり、観賞したりすることが癒しとなっている。利用者が作成したひな祭りの貼り絵が飾られ、春には満開の桜を飾る予定である。毎日の棒体操や嚙下体操が日課となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には椅子、ソファを設置し自由に過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使い慣れた物を置き居心地よく過ごせるようにしている	備え付けが、ベッド、エアコン、タンス、ハンガーフック。誕生日に貰った色紙やみんなで撮った写真を飾ることで、昔を思い出せるように配慮している。利用者が好きな造花をプレゼントしたら涙を流された。毎日、遺影を拝むことで家族を忍ぶことができている。大好きな野球チームのユニフォームを飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方が分かりやすいように配慮し貼り紙、表札など工夫している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201865		
法人名	株式会社 SUN GLOW		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地	岡山県倉敷市林1145-1		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分で出来る事はしていただき、残存機能の現状維持に努めている。 個人個人の生活のペースに合わせた援助を行い、家庭的な雰囲気作りに努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370202701-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 21 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和4年11月より、オーナーが変わり、「自分が入りたいGHを作りたい」、「利用者が安心して頂けるようにしたい」との思いで様々な取り組みを行っている。職員を入れ替えることで目線が変わり、リビングの照明を変えたなど、施設の雰囲気に着手して、職場環境が明るくなった。利用者には「元気で長く」過ごして頂きたい思いから、健康維持に努め、棒体操や嚙下体操、理学療法士の指導のレクリエーションやリハビリに重きを置いた。近隣のスーパーやJAに買い物に出掛け、フラストレーションが溜まらない気配りもしている。かかりつけ医は24時間体制で、きめ細やかな医療機関との連携だけでなく訪問看護の養成も行った。家族からの要望で、看取り体制を整え、研修を実施し、「最期をここで迎えられるよかったです。」と思ってもらえる施設を心に刻んでいる。管理者は両ユニットを兼務し、職員間の意思疎通がスムーズとなり、1日1回お腹をかかえて笑える環境作りにも徹している。「職員が楽しくなければ、利用者も楽しくない」と、利用者や家族の気持ちに寄り添ったケアプランに反映させている。その結果、利用者は元気で明るい表情で生活をしている姿を評価員は目の当たりにすることができた事も、新たなオーナーの意識改革から手始めたことからの成果であろう。
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示しスタッフはいつでも目にする事が出来る	法人全体の理念である「元氣」「相手の思いに寄り添ったサービス」を提供できるように日々のケアに取り組んでいる。理念は実践できていると、代表や管理者は自信を持って答えてくれた。開設してまだ6ヶ月ということもあり、これからの会議や研修にて、理念が浸透できるような体制を作っている。	理念を職員の見えるところに掲示してみたいかがあるか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため積極的な参加は出来ていないが地域の催しなど感染対策に努めながら参加している	朝のゴミ捨て時に、出会った方と挨拶を交わす関係ができています。地域の方からミニ広報誌が配られ、情報の共有ができています。夏祭りにも参加して、出店で買い物を楽しんだり、神輿を見たりすることができた。地域の中学校からお花の提供があり、玄関先に飾っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの学生の郊外学習の受け入れを行い触れ合いの機会を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため開催は出来ていない。2カ月に1度高齢者支援センターの担当宛てに両ユニットのご利用者の近況を書面にて報告を行っている。	現在はコロナの為、リアル開催ができていないが、地域包括支援センターの方にFAXにて報告を行っている。入居者の状況の説明や行事の報告をしている。対面式の会議では、町内会長、地域包括、民生委員、家族の方に参加してもらう予定である。	運営推進会議で出た意見を反映できるように工夫してみたいかがあるか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在コロナ禍のため運営推進会議を行っていない。制度上のことなどは市町村の担当へ直接連絡を取っている。	窓口の基本は代表だが、徐々に管理者へ移行していく予定である。何かわからないことがあれば、親切・丁寧に教えて頂ける関係ができています。施設立ち上げの際には、役所へ直接出向きアドバイスを頂いたこともあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない	研修時には、身体拘束の理念と方針、三原則の確認を行った。参加できなかった職員には、レポートを提出することで、フィードバックする機会を設けている。ベッドの先をL字型に変えることで身体拘束にならない配慮をしている。スピーチロックの研修会にも参加して、知識を深めることができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について正しい知識がもてるようスタッフ間で話し合い、小さな変化があれば情報の共有を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者に一任している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時によく説明し納得されたうえで契約を交わしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し意見要望などを受け付けられるようにしている	面会は令和5年1月より短時間・少人数制で再開したことで、利用者・家族に安堵感が生まれた。病院受診の際に、家族の方から情報を得ることで、今後のケアの参考となっている。家族からの意見を電話で聞き取った際には、職員間で共有するように工夫している。管理者が手紙を書くことで、利用者の様子がわかるとの意見を聞くことができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社移行のためなかなか時間を取ることが出来ず個別に情報収集をしているが今後はミーティング等を定期的に行い情報の共有に努める。	新しい施設に変わる際に、統括責任者が面談を行い、一人ひとりの思いを共感することができた。職員からは、利用者のケアについての話が飛び交っている。職員間の風通しも良く、管理者には情報が何でも集まってくる。SNSを活用することで、職員間の連携も取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は同じ勤務を行いスタッフ個々の状況の把握、相談に応じている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部での勉強会を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ボランティアの受け入れや他施設の行事等に参加している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のペースで会話し出来る限り不安解消に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前後も面談面接にて要望を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの時点でどのような支援が必要か見極める努力をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のコミュニケーションを図りながら信頼関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に情報交換を行い、家族と共に本人を支えるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の電話や面会、手紙のやり取りで関わりを支援している	面会ができるようになり、週1回会いに来られる方もいる。頻回の訪問にも関わらず、昔幼い頃を思い出して、涙を流されていた。唱歌や演歌を流せば、口ずさむことで、利用者は昔馴染みを思い出している。利用者同士が「おはよう」と声を掛けることで、コミュニケーションが取れ、施設内で馴染みの人ができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の生活のペースを尊重しており、居室で過ごされる方もいるが、水分摂取時やおやつ時はフロアへ誘導しスタッフも交え交流を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の話に傾聴し出来る限り希望に添えるよう努めている	入居時に生活歴を把握しているが、わからないことがあれば家族の方に聞き取るように工夫している。利用者に寄り添い、家族にも安心して頂けるように、職員を担当制に変える予定である。入浴中にポロっと出る何気ない会話を大切にしている。出た意見は申し送りやカンファレンスにて職員間で共有することができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き、また日々の会話より生活歴を把握出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の健康状態は日々チェックし状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人、主治医等と情報交換を行いそれぞれの意向を反映した介護計画を作成している	入居時に暫定プランを立てて、何もなければ1ヶ月、6ヶ月で見直している。ケアマネジャーを中心に、アセスメントシートに細かく記載したり、職員からの情報の提供をしたりすることで、利用者寄り添った介護計画となっている。長期目標は1年、短期目標は半年で設定していて、モニタリングは3ヶ月に1回実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日生活状況が把握出来るように個別に記録しケアプランに反映できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長期で医療的治療が必要とされた場合を除き可能な限り支援に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に応じた対応が行えるよう努めたいと考えている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診があり、主治医は一人ひとりの状態を把握し何でも相談出来る関係を築いている。必要があれば歯科医往診など対応している	きめ細やかな対応や24時間体制で診て頂けるので、かかりつけ医は、ほとんどの方が協力医に転医されている。往診が週2回、訪問看護が週1回、薬剤師が2週間に1回来てくれるので安心して任せることができています。他科受診は、基本家族対応だが、管理者も同行している。訪問歯科は必要時には、対応して頂ける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間の連携体制を取りご利用者に変化があった際には早期対応が行えるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後も家族や病院との情報相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当事業所の指針を説明し同意を得ている	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」にて説明し、同意を得ている。4月に看取りの研修を開催して、施設全体で看取りに対して前向きに取り組む姿勢がみられた。今後、施設内で看取りが実施できるように準備中である。管理者の思いは、最期をしっかりと見送りできるようにしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを基にし外部の勉強会の参加も促している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に行っている	新しい施設となつてすぐ、昼設定で火災訓練を実施した。通報訓練と消火訓練を行った。玄関にハザードマップ、事務所と各ユニットの詰所に連絡網を掲示している。春先には、夜間想定での避難訓練を実施する予定である。備蓄は、グローブ、マスク、ブランケット、水、ドライフードを事務所に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の人格を尊重しその人に合った声かけを行っている	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、利用者の反応をみて、別の呼び方をする場合もある。呼称をケアプランに入れることで、了承を得ようとしている。居室へ入る時には、必ずノックをしてから入室し、写真を撮る際にも了承を得ている。職員は、自分されて嫌なことはしないように日々のケアに取り組んでる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人が自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで会話し出来る限り不安解消に努めているペースを優先している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	相談もあるが自己決定している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や、季節の食材を取り入れている。机拭きなど入居者が手伝ってくれる	3食ケイタリングだが、ご飯は施設で炊いている。嚥下体操をすることで、スムーズに食すことができ、完食の方が多い。誕生日の際には、利用者には嗜好調査をした上で、お寿司や紫いもを使った豚汁を提供したら喜んで頂けた。行事の際には、職員と一緒に食卓を囲むことで利用者にも笑顔が生まれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の食事形態を考え十分な水分摂取の確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行う、排泄の失敗やおむつの使用を減らすように努めている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握したことで、スムーズなトイレ誘導が出来るようになり、失敗が減った。頻回にトイレへ行く利用者に対しては、医療機関と連携したり、家事作業を取り入れたことで、トイレの回数が通常に戻った事例がある。表情や仕草を見て、トイレへ誘導するように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や乳製品、水分摂取を日々の生活へ取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事故防止に努めながら、リラックスできる時間を提供できるよう、ご本人の体調に配慮しながら定期的に支援している。	週2～3回。1日3人までの入浴にしたことで、利用者がゆっくり入ることができ、職員との会話が弾むようになった。基本は掛け足したが、状況に応じてお湯を入れ替えることもある。全員がなるべく1番風呂に入れるように順番に配慮している。季節湯としてゆず湯の提供をしたり、気分を変える為に、入浴剤を使ったりする場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに合わせて入眠の声掛けを行っている。また、安心して休んで頂けるよう声掛けや関わりなどに配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフがいつでも見えるように薬情報はファイルし、正しく服用出来るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴をスタッフが理解したうえで、それぞれにハリのある生活をしていただけるように努める		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には行えていないが、本人の希望があれば個別に対応し、戸外へ出かけるように支援している	近隣のスーパーやJAに買い出しに行くことで気分転換となっている。買い物がてら茶屋町付近へ足を伸ばしドライブを敢行した。深山公園で花や果物を買ひ、紫いもアイスを食べたら美味しいと喜んで頂けた。福田公園へ行き、満開の桜を見ることができた。玄関先のソファでお茶を飲みながら会話を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で少額を持たれている方はいるが、基本的には施設で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には月ごとに応じた壁画、写真を飾るなどし自由に過ごせるようにしている	リビングの照明を明るくしたことで、利用者も雰囲気も明るくなった。職員が自宅からメダカを持って来てくれて、餌をやったり、観賞したりすることが癒しとなっている。利用者が作成したひな祭りの貼り絵が飾られ、春には満開の桜を飾る予定である。毎日の棒体操や嚙下体操が日課となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には椅子、ソファを設置し自由に過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使い慣れた物を置き居心地よく過ごせるようにしている	備え付けが、ベッド、エアコン、タンス、ハンガーフック。誕生日に貰った色紙やみんなで撮った写真を飾ることで、昔を思い出せるように配慮している。利用者が好きな造花をプレゼントしたら涙を流された。毎日、遺影を拝むことで家族を忍ぶことができている。大好きな野球チームのユニフォームを飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方が分かりやすいように配慮し貼り紙、表札など工夫している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				